

幼兒と俱に皇紀二千六百年を迎ふ

倉 橋 惣 三

一
この目出度い皇紀二千六百年を、たなびく雪の美しい高き嶺に登つて迎へやうか。打ち寄する波も靜かな廣い磯に出て迎へやうか。おもへば同胞は、まことにいろ／＼さま／＼の處に、この年を迎へてゐるこゝであらう。その中でも、戦塵の裡に迎へ、殊に彈雨の下にさへ迎へてゐるであらうわれらの將士こそ、最も意味深く此の年を迎へてゐる人々であるが、その他の何人こそ、この年をこそ、それ／＼の意義を以て迎へないものはない。そして、悠久二千六百年の過去こそ、更に悠久なる國の永遠の間に立つて、誰れも、身のひきしまるを覺えないものはないであらう。而してわれらは、いつもの通り、幼兒達の間にあつて、その子らこそ之れを迎へてゐる。

こゝには、嶺の上の如く氣の澄める高さもない。磯のほゞりの如く波の音つゞく廣さもない。平坦があるばかりである。さゝやかさがあるばかりである。人をして仰がしむるものもなく、展望せしめるこゝもない。謂つてみれば、平穩さ親さ、明朗さ純真さの陽だまりがあるだけである。しかし、こゝには生長があり、發達があり、將來がある。今高からざれど伸びゆく力あり、現に廣からざれど擴がりゆく勢あり、未だ小なれども大なるべき希望あり、一切を明日に約して一毫疑ふこゝろがない。われらは、そうした中に立つて、此の意義深き年を迎へるのである。

二

子ぎも俱にゐるものは、子ぎもによつてのみ自己を生かす。又、子ぎもによつて、自己を生かされる。皇紀二千六百年といふ此の年の深い大きい意義をも、子ぎも達に於て生かさうとする。數へれば遠い久しい年月であるけれども、それ

は、つまりは、子ぎもに繼がれ、子ぎもに繼がれて來た年月に他ならない。其のいつの年にも、幼き者は幼き者として居り、その生長を發達ににつれて、年は重ねられつゞけて來たのである。上、皇室の御代々は言ふも畏し、億兆の臣子、皆、その子を育て、御代に仕へて來たのである。今も亦そのまゝがつゞけられてゐるに他ならず、それが、われらの責務として課せられてゐるに他ならない。すなはち、われらは、幼き者を通して、悠久の歴史を、更に悠久なる國の永遠につないでゆきつゝあるのである。

斯く想ふ時、われら子ぎもに俱にゐるものゝ、世にも生き甲斐のある生活を幸福とせざるを得ない。たゞに一人々々の子を、その個人の完成に遂げしめるだけでも、喜びは大きい。それが、國の歴史の繼承者たらしめるのである。二千六百年がそうであつて來た通り、更に將來もそうである。而してそれは空想でも、理想でもなく、現に今、わたしの傍にゐるものに於て、それが成し上げられるのである。至幸といはざるを得ない。

このよき年を記念して、種々の計畫が世に行はれる。皆誠心である。いづれも貴い。その範圍の廣く、企ての壯ならんことを期して已まない。しかも、幼兒に俱にゐるものは、幼兒に於て常に記念品をのこしつゝあるのである。彼等を健全にし、その發達を完からしめるこそそのここに記念事業がある。

三

皇紀二千六百年、感激胸に溢れる。いざその感激を以て、子等を一層強く抱いてやらう。一層周到に行き届いてやらう。一層高く導いてやらう。そして、今日を一層よき明日につぎ、この二千六百年を、更に、動の二千六百年としての意義に充實せしめよう。

(附記) これは幼兒に俱にゐるものゝ、この年の心の一番の底を申したのです。この心はこの心として、所謂記念事業といつたことが、幼稚園にいらぬといふ意味ではありません。そういふことを思はれたら、大きな誤解です。折角く此の目出度い年にめぐりあはせた喜びは、いろ／＼の形さもなくばあらはしたいし、あらはれずゐられないことでもあります。皆さんも、それ／＼御計劃が、たん／＼あること／＼思ひます。そして、それ等の記念物、記念事業は、それを通して、子ぎも達に、いゝ教育にもなることです。大に祝しませう。その祝意を形にもあらはしませう。後々にもそれを残しませう。たゞその底に、幼兒に俱に今年を迎へる者の特別な心持ちを見落さないやうにしませう。